

## 第2回 データを集める

大川 尚子（関西福祉科学大学 教授）

前回（通信 No.132）の兵庫教育大学大学院の西岡伸紀先生に引き続き、今回は「データを集める」と題して執筆させていただくことになりました。研究経験が浅い私に何か書けるか不安がありますし、内容的に恥ずかしいところが多くありますが、大学院生時代に戻って整理してみたいと思います。

研究のテーマが決まり、どのような方針で研究を進めていくかがあらかじめ決まってきたら、データ収集の具体的な方法を考えることになります。

データ収集の方法は、面接調査、質問紙調査、文献調査と大きく三つに分けられます。

- (1) 面接調査
- (2) 質問紙調査
- (3) 文献調査

(1) は、実際に調査の相手の目の前で調査を行ないませんが、(2) は、誰かに調査を依頼したり、通信によって調査を行なうこともあります。(3) では、文献(本)が調査の中心になります。

(1) は、調査する側が相手と一対一で調査を行ないますから、調査効率の点では、かなり悪いこととなりますが、その代わり、疑問に思ったことは、すぐその場で尋ねたりすることもできますし、その時の表情や態度といったものも貴重な情報となります。

(2) は、一度に大量のデータを集めることができるという点で、調査効率はいいのですが、一つ一つのデータの特徴や信頼性に充分注意する必要があります。

研究は、扱うデータの違いから量的研究と質的研究に分かれています。量的研究とは、仮説を立て、それが正しいかどうか、明らかにしていく「客観的な仮説検証」型研究です。また、質的研究とは、研究対象を数や量ではなく、質において理解し、科学性を有した方法で分析する研究です。

(1) は質にすぐれ、(2) は量にすぐれている

と言えます。(3) も、調査する側が地道に文献を読み進めていくという点では、調査効率はよくないのですが、最近は、電子ファイルを利用して、調査効率を高めることができるようになっています。

### (1) 面接調査

面接調査は、質的研究に多く用いられる手法で、相手に直接対面して（通常は、一対一で行ないませんが、対話を調査したいときなどは、複数の相手に対することもあります）、調査する側が、さまざまな問いかけをしながら、情報を得ていくというものです。時間はかかりますが、それだけにきめの細かい情報を得ることが可能です。相手に了解を得て、録音し、逐語録を作成することが多いです。

### (2) 質問紙調査

質問紙調査は、質問紙を作成・配付して、そこに記した問に答えてもらうというかたちの調査方法です。この方法は、面接調査とは違って、一度に多くの人から情報を大量に得ることができるという特徴を持ちます。

ただし、一対一で行なわれる面接調査では、必ず回答をしてもらえると考えていいのですが、質問紙調査は、用紙を渡しても返ってこない場合を考えておく必要があります。質問紙の回収率は、調査の内容とも関わってきます。何でもとにかく自由に書いてもらうという質問紙を作成するのは、回答する方からすると面倒で、途中でいやになって投げ出してしまうという事が考えられます。一方、集計する方からしても、自由に書かれた質問紙は、そのまとめ方に苦慮するものとなります。

そのため、質問紙は、なるべく選択式にします。予想される回答を選択肢にしておいて、なおかつ、それ以外の回答を自由に書けるように、その他（ ）のような欄を作っておくとよいでしょう。そうすれば、回答する人も、あまり労力を費やさずに、しかも、自由に書きた

い場合には書けるということになります。

質問紙調査は、調査方法によって様々な特徴があります。対象者本人が記入する方法を自記式（自計式・直接記入式）と言ひ、調査者が記入する方法を他記式（他計式・間接記入式）と言ひます。

自記式には、学校や研修会の会場で集合して、一斉に配布して回収する「集合調査」、郵送により調査する「郵送調査」、インターネットによる「インターネット調査」、訪問や入口で配布して、出口で回収したりする「留め置き調査」があります。他記式には、面接による「個別面接調査」、電話による「電話調査」などがあります。

### (3) 文献調査

文献調査は、面接調査や質問紙調査のように、生きている人間そのものを対象とするものではありませんから、ある文献の文字を記している際の意識を尋ねたりすることはできません。ですから、注意深く前後の文脈を読み解いたり、全体の構成を見渡したりしながら、判断していくことが大切です。

また、文献調査は、質問紙調査のように一度に大量の資料を得るということがなかなか難しかったのですが、索引の発達と電子テキストの発達とによって、大量のデータを扱うことが可能になってきています。電子テキストは、コンピュータ上で、調べたい語句を一瞬のうちに見つけ出してくれます。どのような電子テキストがあるのかということや、自分が調査したい文献が電子テキストで利用できるかといったような情報については前回で西岡先生に報告

していただいております。

なお、言うまでもないことかもしれませんが、索引や電子テキストというものは、あくまでも便宜的な手段であって、それによって検索した部分を読み解くのは、やはり普段から培った読解の力によることを忘れてはなりません。じっくりと腰を据えて本を読むという経験を豊かにしておく必要があります。

### <質問紙調査の手順>

- (1) 研究課題や問題点を確認する
- (2) 質問紙調査を企画する：対象、人数、時期等
- (3) 質問紙を作る：質問項目、回答形式
- (4) 質問紙を作る予備調査をおこなっておく：これが大切！
- (5) 質問紙調査を開始する
- (6) 集まったデータを解析する⇒次回以降の課題です！
- (7) 最後に報告書を作成する：学会発表、論文作成

### <質問紙を作るときの一般的な注意点>

- ・質問の順序は答えやすいものから順に並べる。
- ・質問をグループに分け、関連するものは続けて質問する。
- ・誰でも分かる明確な言葉で書き、できるだけ短くする。
- ・専門用語をできるだけ使わない。
- ・同じ内容の質問をしない。
- ・1つの質問で2つ以上のことを聞かない。
- ・回答を誘導するような質問をしない。

